

他県からみた南部方言 兵庫県・岡山県での方言アンケート調査を踏まえて

著者	？島 直人, 岩崎 真梨子
著者別名	TAKASHIMA Naoto, IWASAKI Mariko
雑誌名	八戸工業大学紀要
巻	38
ページ	38-48
発行年	2019-03-01
URL	http://doi.org/10.32127/00003860

他県からみた南部方言 —— 兵庫県・岡山県での方言アンケート調査を踏まえて ——

高島 直人[†]・岩崎 真梨子^{††}

Dialect questionnaire of Nanbu dialect Nanbu dialect recognition of Hyogo and Okayama prefectures

Naoto TAKASHIMA[†], Mariko IWASAKI^{††}

ABSTRACT

A questionnaire survey of mainly young people regarding the Southern Regional Dialect was conducted. The results indicate that the Southern Regional Dialect was well-known in the Northeast (Tohoku) Region of Japan but was poorly understood there, and that it was little-known in other prefectures. However, the respondents indicated that although they did not use words such as shakkoi and nageru, which have become well-known throughout the country from appearing in the mass media, they were able to understand them. This suggests that in order to improve the degree to which the dialect can be understood in the Tohoku Region, it is necessary to inform people of the differences in the meanings of words of the Southern Regional Dialect. If the responses obtained in this questionnaire survey can be used to increase awareness for the Southern Regional Dialect in other prefectures and its comprehension the Tohoku Region, it may mitigate the decline of regional dialects.

Key Words: *dialect questionnaire, Tohoku dialect, Nanbu dialect, comparison with other prefectures*

キーワード: 方言アンケート, 東北方言, 南部方言, 他県との比較

1. はじめに

現在では、全国的に方言が衰退していることが指摘されている。実際に筆者(宮城県出身)の周りでも方言を使用する人がおらず、地方方言が若者を中心に理解度、認知度ともに低いと感じ

る。

このような現状の中、その地域に住む人々の方言がどの程度認知されているのか、また普段の会話の中で使われている言葉が方言だと理解しているのかを調べる方言アンケート調査を実施したいと考えた。アンケートを実施することで、他県での南部方言の認知度、東北地方での方言の理解度を明らかにし、方言の今後について考察することが目的である。

アンケート調査は、青森県南部地域の南部方言について行うこととし、東北から離れた地域のデータとして西日本から兵庫県と岡山県の若

平成30年12月10日受付

[†] 工学部土木建築工学科・3年

^{††} 基礎教育研究センター・講師

者を対象とした。また、比較対象として、東北地方在住者にもアンケートを実施した。

結果、西日本のデータのほとんどが「南部方言を知らない」と回答し、認知度が低いことが分かった。また、東北地方では、言葉の認知度は高かったが共通語として認知していたという回答が多く、方言としての理解度が低い結果となった。このアンケートを回答することにより、他県での南部方言認知度が上がると共に、東北地方では方言としての理解度が上がれば地方方言の衰退も緩和出来るのではないかと考える。

2. アンケート調査

2.1 アンケート調査の内容

青森県南部地域の南部方言を中心に東北地方で使われている16の方言を抜粋し、それらの方言を「知っているか」「方言だと思っているか」「使うか」についてのアンケートを行った。

- ・実施期間 2018年4月～7月
- ・実施場所 東北地方 青森県、岩手県、西日本 兵庫県、岡山県
- ・調査の対象 青森県南部地域に住む全世代 岩手県、兵庫県、岡山県は10代、20代の若者を対象とした。
- ・調査方法 青森県では街頭でアンケート調査票を配布し、その場で回答者が書き込む自記式で調査を行った。岩手県・兵庫県・岡山県は、アンケート調査票を送付し、実施先の大学の講義を利用して回答者が書き込む自記式で調査を行った。

3. 岡山県と東北地方のアンケート調査結果の比較

3.1 岡山県の回答者データ

はじめに、岡山県でのアンケート調査によって得られた回答者のデータを挙げる。

回答者の出身地(3歳から10歳までで最も長く住んだ地域)は以下の通りである。

表1 回答者の出身地

北海道	1	鳥取県	5
秋田県	1	島根県	4
静岡県	1	広島県	8
愛知県	4	山口県	2
滋賀県	1	愛媛県	7
三重県	2	徳島県	4
和歌山県	1	香川県	8
大阪府	2	福岡県	3
兵庫県	15	長崎県	2
岡山県	23	鹿児島県	1

回答者は合計で95名であった。岡山県でデータを取ったが、兵庫県出身者が全体の15%と多かった。

続いて、年齢、職業、性別を挙げる。

年齢

19歳以下 80名、20代 13名、40代 1名
無回答 1名

職業

高校生 1名、高専・短大・大学生 94名

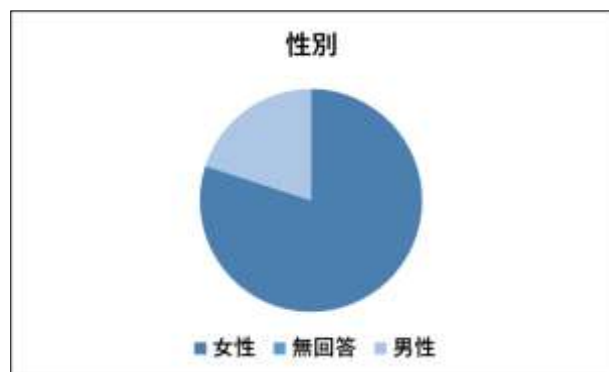


図1 回答者の性別

女性が76名で全体の80%を占めている。

3.2 岡山県のアンケート調査結果

以下、アンケート調査の結果の一部を挙げる。

はじめに、「(テレビに)ハイル」という方言を取り上げる。「(テレビに)ハイル」は青森県や北海道などで「知っている」「使う」という回答が得られる方言である。たとえば、「今日、野球入るよー」というと、テレビで野球の試合が放送されるという意味になる。他に、「田中さん(がテレビに)入ってる」のように、テレビに映ることを「ハイル」で表すことも可能である。

まず、「あなたは「(テレビに)ハイル」という言葉を知っていますか？」という問いに対する回答を挙げる(以下、グラフ内の数字は人数を表す)。

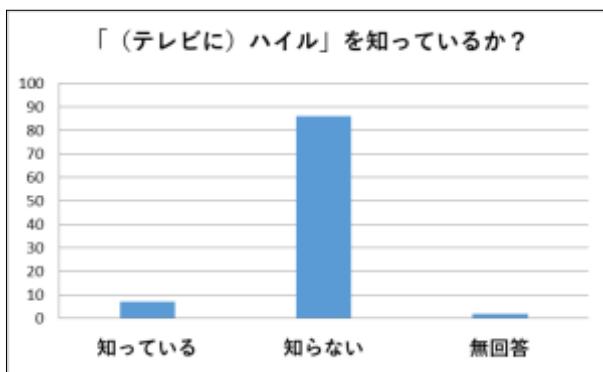


図2 「(テレビに)ハイル」を知っているか?

「知らない」と答えた人が86名で、認知度が低いということが明らかになった。

続いて、「この言葉を方言だと思っていますか？」に対する回答を挙げる。

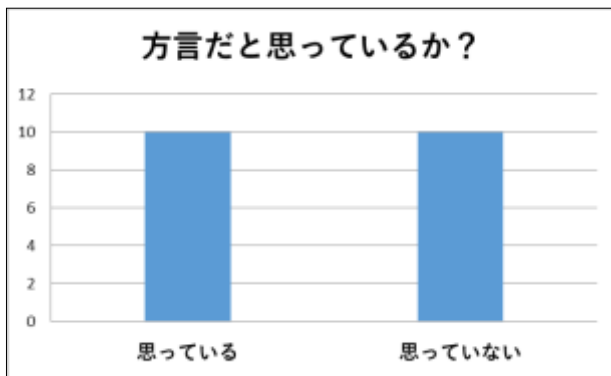


図3 方言だと思っているか?

「思っている」「思っていない」と答えた人が10名と同数であった。

最後に、「あなたは「(テレビに)ハイル」という言葉を使いますか？」という問いに対する回答を挙げる。

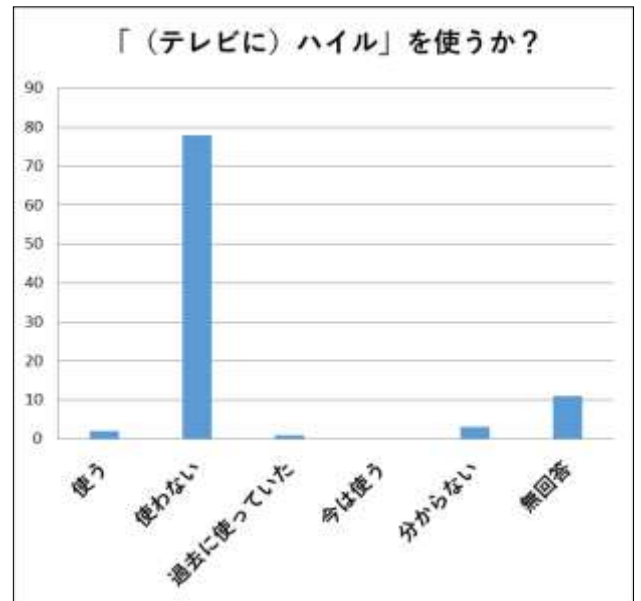


図4 「(テレビに)ハイル」を使うか?

「使わない」が78名となり、他の回答に比べて圧倒的に多かった。

次に、同じく、青森県や秋田県、岩手県などで「知っている」「使う」方言に、比較する際に使う「～ヨリダッタラ」がある。「リンゴよりだったら、ミカン食べる」のように、「AよりもB」というときに用いる。また、「それよりだったら」という表現でも用いられる。たとえば、秋田県の県議会議事録で以下のような使用例が見られる。

それから、先ほど冒頭でも話ししましたが、新聞だとかマスコミで話をしても一発勝負なのです。それよりだったら、例えばのぼりを上げるとか、何か例えばお店に行ったら龍角散のそばに御飯を置くとか、何かそういう発想の転換で【以下略】

(発言者：平山晴彦 平成28年第1回定例会《2月議会》農林水産委員会 第2日 2016/2/25)

以下、「～ヨリダッタラ」のアンケート調査結果を挙げる。まず、「あなたは「～ヨリダッタラ」という言葉を知っていますか？」という問いに対する回答を挙げる。

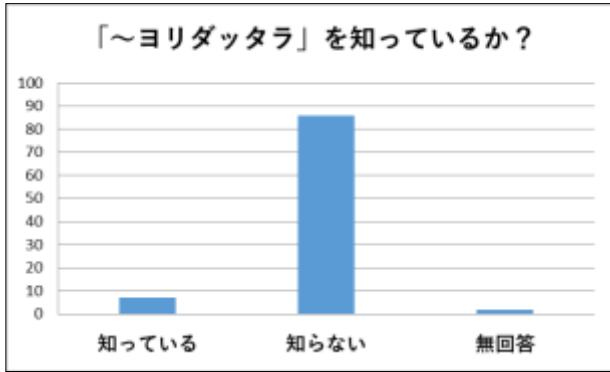


図5 「～ヨリダッタラ」を知っているか?

知らないと答えた人が 86 名で、「(テレビに)ハイル」と同じく認知度が低い。

次に、「この言葉を方言だと思っていますか？」という問いに対する回答を挙げる。

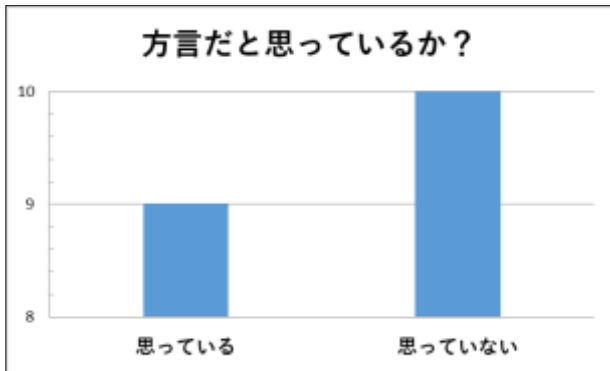


図6 方言だと思っているか?

「思っている」9名、「思っていない」10名で、「(テレビに)ハイル」と同様の結果となった。

最後に、「あなたは「～ヨリダッタラ」という言葉を使いますか？」という問いに対する回答を挙げる。

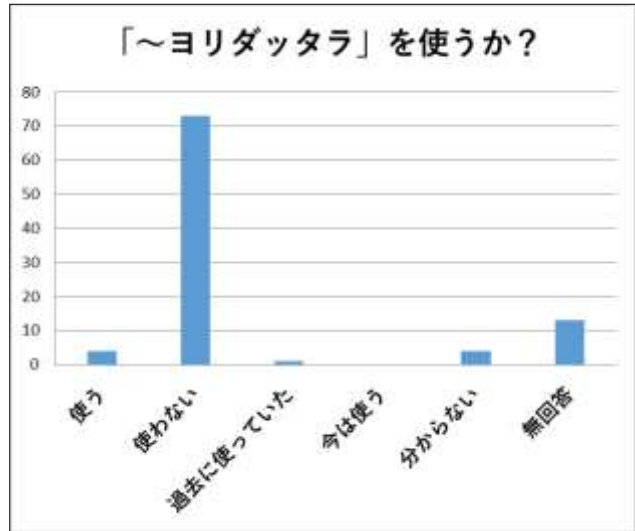


図7 「～ヨリダッタラ」を使うか?

「使わない」が 73 名で、これも「(テレビに)ハイル」と同様、他県の方言を使用する人は少ないということが明らかになった。

ここまで、青森県などで若年層でも「知っている」「使う」という回答が得られそうな方言のデータを挙げてきた。ここで、青森県や東北地方の方言集や方言辞典にも掲載されている n 的な方言の「シャッコイ(共通語：冷たい)」の結果を挙げておく。以下は、「あなたは「シャッコイ」という言葉を使いますか？」という問いに対する回答である。

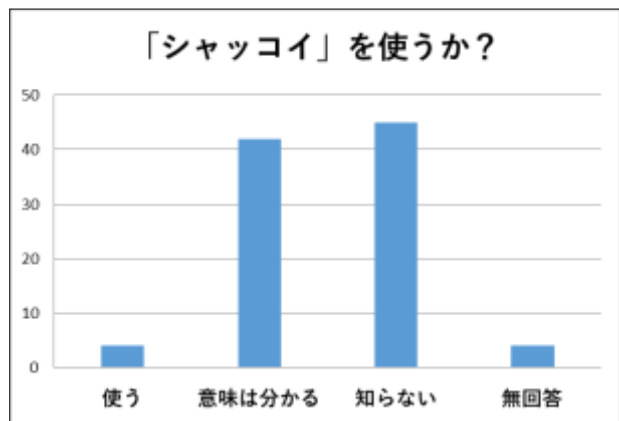


図8 「シャッコイ」を使うか?

「知らない」と答えた人が 45 名で最も多いが、「使わないが意味は分かる」と答えた人も 42 名

であり、使用はされないが意味が伝わりやすい可能性があることが明らかになった。このように、伝統的な方言は理解されやすい可能性もある。今後も別の語で調査を続けたい。

3.3 東北地方の回答者データ

次に、東北地方でのアンケート調査結果について取り上げ、3.2 節の岡山県のデータと比較する。東北地方でのアンケート調査によって得られた回答者のデータは以下の通りである。

回答者の出身地(3歳から10歳までで最も長く住んだ地域)を挙げる。

表2 回答者の出身地

青森県	122	千葉県	1
岩手県	59	静岡県	2
秋田県	14	愛知県	1
山形県	2	岐阜県	1
宮城県	8	滋賀県	1
福島県	5	福岡県	1
北海道	9	熊本県	1
埼玉県	3	宮崎県	1
群馬県	2	アメリカ	1
茨城県	1	中国	1
栃木県	1	無回答	5
神奈川県	2		

回答者は合計で244名であった。青森県出身者が50%で、全体の半数を占める。

続いて、年齢、職業、性別を挙げる。

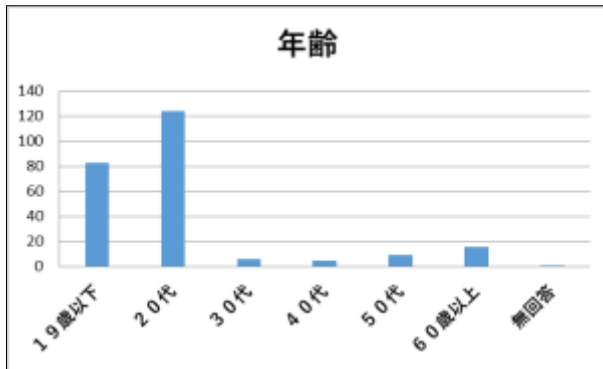


図9 回答者の年齢

19歳以下が83名、20代が124名、30代が6名、

40代が5名、50代が9名、60歳以上が16名と幅広い年齢層に分かれているが、若年層が全体の約85%を占め、中心となっているといえる。

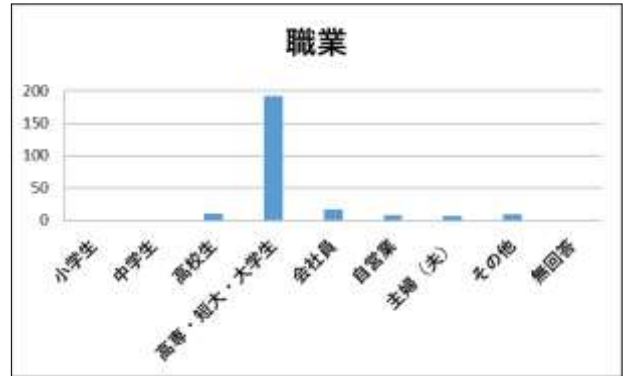


図10 回答者の職業

高校生が11名、高専・短大・大学生が192名、会社員が17名、自営業が8名、主婦(夫)が7名とさまざまな職種に分かれているが、学生が全体の約83%を占める。

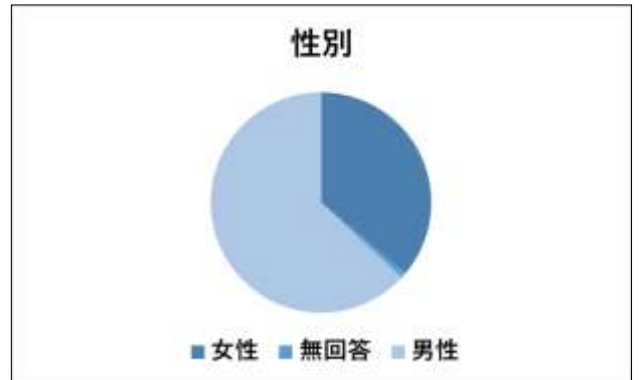


図11 回答者の性別

男性が154名と全体の約63%を占める。

3.4 東北地方のアンケート調査結果

比較のため、3.3 節と同じ方言を取り上げ、アンケート調査結果を挙げる。

まず、「(テレビに)ハイル」である。「あなたは「(テレビに)ハイル」という言葉を知っていますか?」という問いに対する回答は、次の通りである。

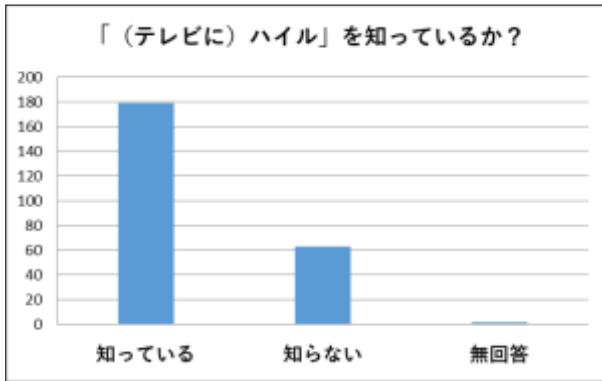


図 12 「(テレビに)ハイル」を知っているか?

「知っている」と答えた人が 179 名と全体の約 73%を占め、非常に認知度が高いことが明らかになった。

続いて、「この言葉を方言だと思っていますか?」という問いに対する回答を挙げる。

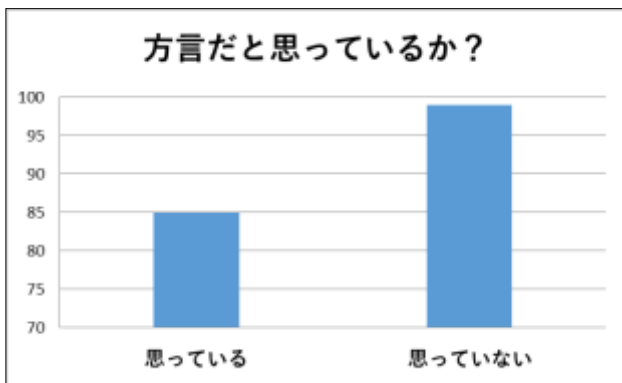


図 13 方言だと思っているか?

「思っていない」と答えた人が 99 名で、約 53%を占め、方言であるという理解度が低いと考えられる。

「あなたは「(テレビに)ハイル」という言葉を使いますか?」という問いに対する回答は以下の通りである。

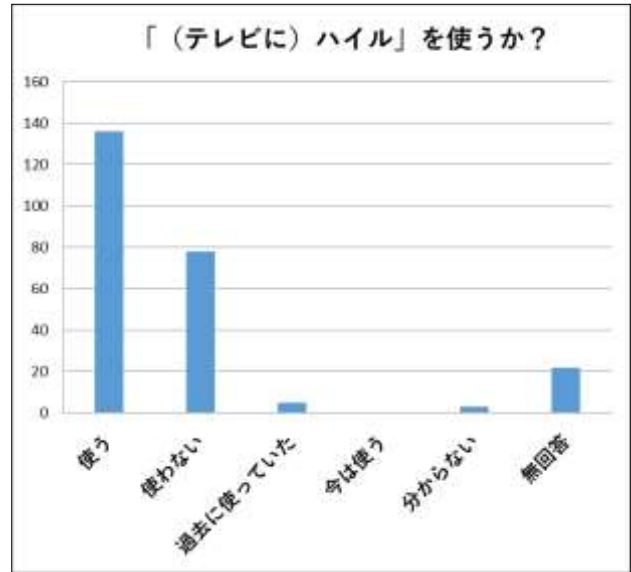


図 14 「(テレビに)ハイル」を使うか?

「使う」と答えた人が 136 名と全体の約 56%を占め、半数以上が使用している。

続いて、「～ヨリダッタラ」のアンケート調査結果を挙げる。まず、「あなたは「～ヨリダッタラ」という言葉を知っていますか?」という問いに対する回答を挙げる。

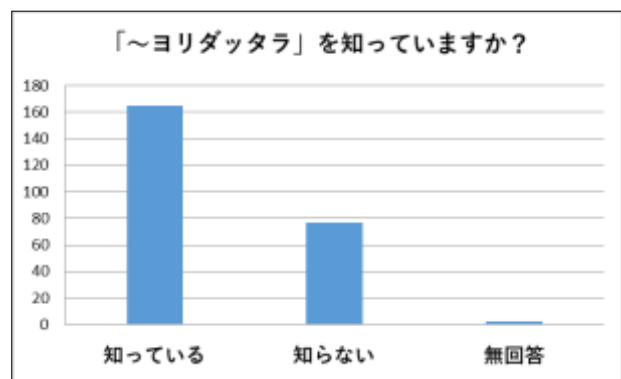


図 15 「～ヨリダッタラ」を知っているか?

「知っている」と答えた人が 165 名と全体の約 68%を占めるが、「(テレビに)ハイル」のほうが認知度が高い。

「この言葉を方言だと思っていますか?」という問いに対する回答は、以下の通りである。

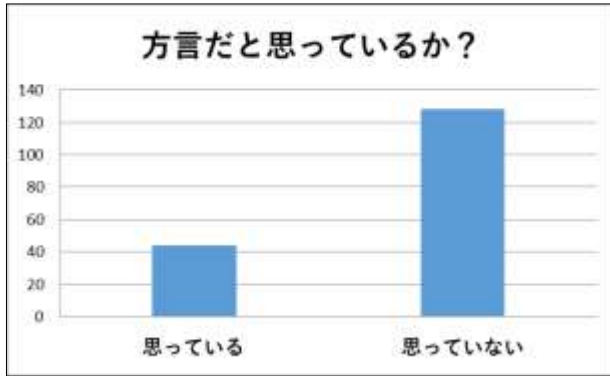


図 16 方言だと思っているか？

「思っていない」と答えた人が 128 名との約 74%を占め、「(テレビに)ハイル」と同様に、方言であるという理解度が低いことが明らかになった。

続いて、「あなたは「～ヨリダッタラ」という言葉を使いますか？」という問いに対する回答を挙げる。

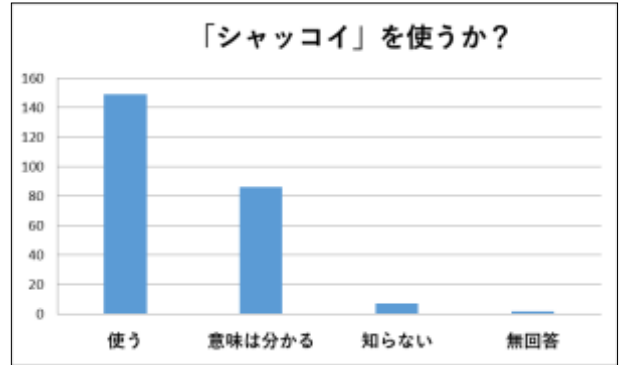


図 18 「シャッコイ」を使うか？

「使う」と答えた人が 149 名と全体の約 61%を占め、半数以上が使用している。また、「使わないが、意味は分かる」まで含めた認知度は全体の約 96%と非常に高いことが分かった。

4. 兵庫県と東北地方のアンケート調査結果の比較

4.1 兵庫県の回答者データ

兵庫県のアンケート結果を挙げる。回答者のデータは以下の通りである。

表 3 回答者の出身地

北海道	2	和歌山県	3
福島県	1	岡山県	1
茨城県	1	鳥取県	1
神奈川県	1	広島県	1
千葉県	1	山口県	1
東京都	3	徳島県	1
愛知県	1	香川県	2
石川県	1	福岡県	3
奈良県	5	熊本県	1
兵庫県	38	台湾	1
大阪府	25	韓国	1
京都府	2		

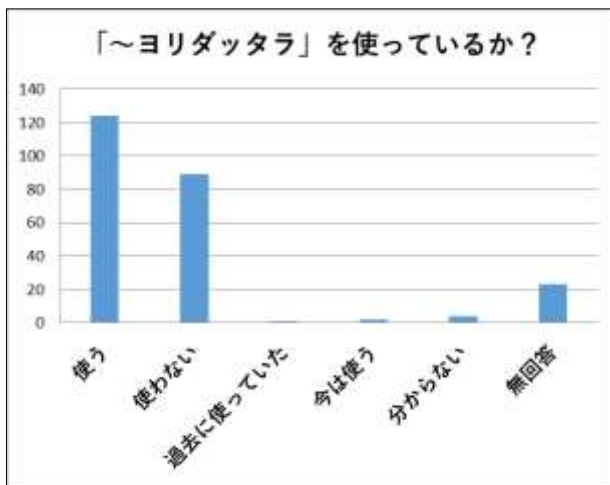


図 17 「～ヨリダッタラ」を使うか？

「使う」と答えた人が 124 名と全体の約 51%を占め、約半数が使用している。だが、「(テレビに)ハイル」よりも使用されていないことが分かった。

最後に「シャッコイ」のアンケート調査結果を挙げる。「あなたは「シャッコイ」という言葉を使いますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

回答者は合計で 97 名であった。岡山県でデータを取ったが、大阪府出身者が全体の約 26%と多かった。

続いて、年齢、職業、性別を挙げる。

年齢

19歳以下 42名、20代 55名

職業

高専・短大・大学生 96名、無回答1名

性別

女性 97名

兵庫県では、女子大学でアンケート調査を実施したため、女性のみでの回答である。

4.2 兵庫県のアンケート調査結果

ここでも、いくつかの方言を取り上げてアンケート調査結果を示し、4.3 節で東北地方のアンケート調査結果と比較する。

まず、3 節でもデータを示した「～ヨリダッタラ」を再び取り上げる。「あなたは「～ヨリダッタラ」という言葉を知っていますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

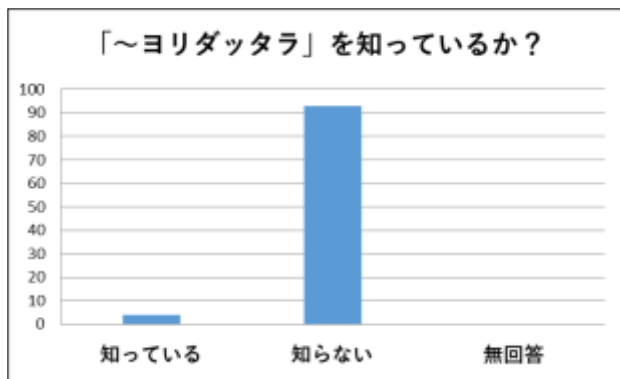


図 19 「～ヨリダッタラ」を知っているか?

「知らない」と答えた人が 93 名である。

「この言葉を方言だと思っていますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

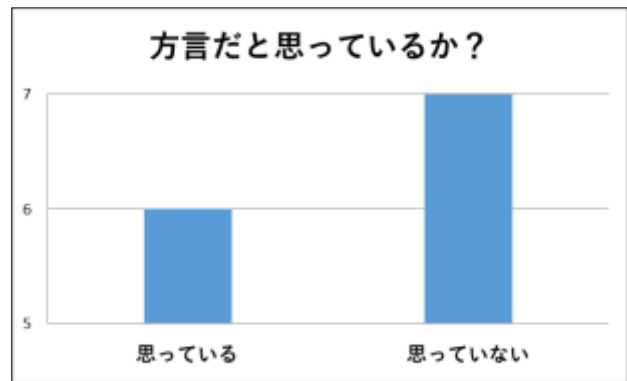


図 20 方言だと思っているか?

「思っていない」と答えた人のほうが「思っている」と答えた人より多かった。

「あなたは「～ヨリダッタラ」という言葉を使いますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

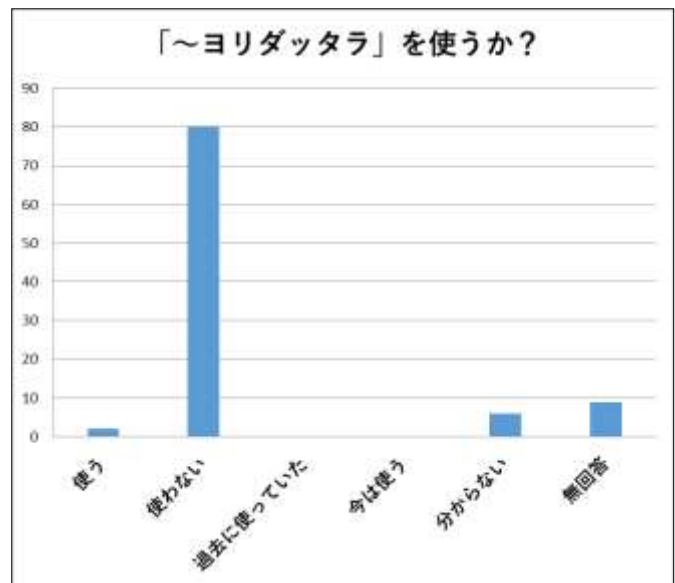


図 21 「～ヨリダッタラ」を使うか?

「使わない」と答えた人が 80 名となった。岡山県での結果と同様、認知されていないし使用もされないということが明らかになった。

続いて、手袋を身に着けるときの「(手袋を)ハク」を取り上げる。「あなたは「(手袋を)ハク」という言葉を知っていますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

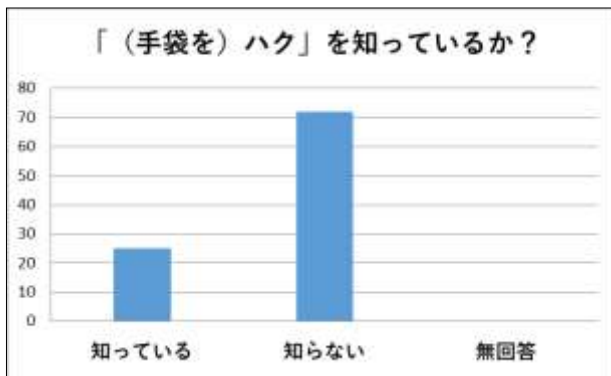


図22 「(手袋を)ハク」を知っているか?

「知らない」と答えた人が72名と全体の約74%を占めた。「～ヨリダッタラ」よりも知っている割合が高い。「知っている」と答えた人は25名である。「(手袋を)ハク」は、篠崎(2013)によると北海道や香川県、徳島県、沖縄県でも用いられている方言であるため、西日本でも認識されている割合がやや高いのではないかと考えられる。

「この言葉を方言だと思っていますか?」という問いに対する回答は以下の通りである。

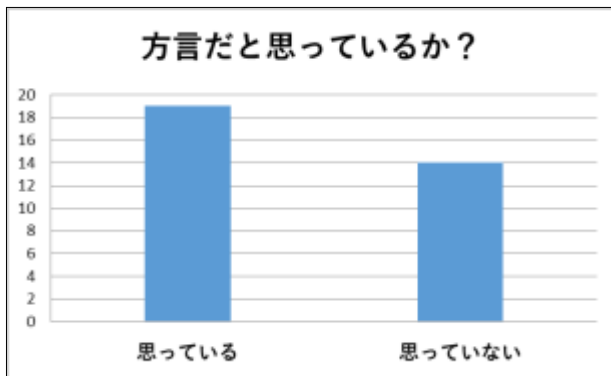


図23 方言だと思っているか?

「思っている」と答えた人が19名と約58%を占め、半数以上が方言だと理解していることが分かった。

最後に、「あなたは「(手袋を)ハク」という言葉を使いますか?」という問いに対する回答は次の通りである。

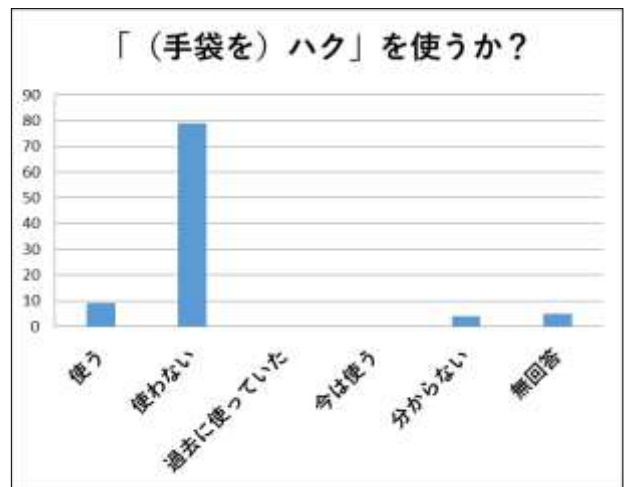


図24 「(手袋を)ハク」を使うか?

「使わない」と答えた人が79名と全体の約81%を占めた。知っているも、使ってはいないという可能性が高い。

最後に、「シャッコイ」同様、古くからある伝統的な方言「ナゲル(共通語:捨てる)」のアンケート調査結果を挙げる。「あなたは「ナゲル」という言葉を使いますか?」という問いに対する回答は以下の通りである。

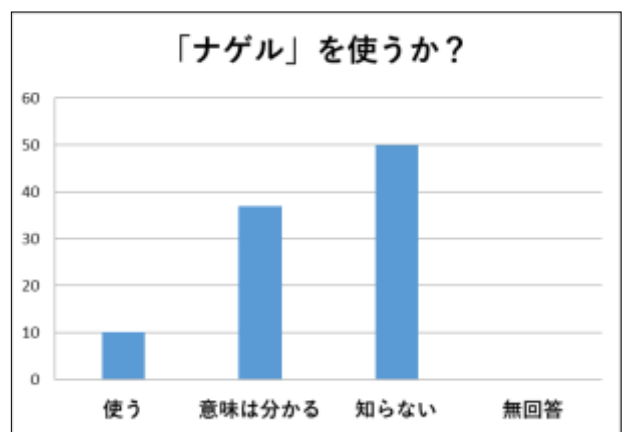


図25 「ナゲル」を使うか?

「知らない」と答えた人が50名と全体の約52%を占めた。しかし一方で、「使わないが意味は分かる」と答えた人も37名いるという結果になった。

4.3 東北地方での アンケート結果

続いて東北地方のアンケート結果を挙げる。

まず、「(手袋を)ハク」のアンケート調査結果を挙げる。「あなたは「(手袋を)ハク」という言葉を知っていますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

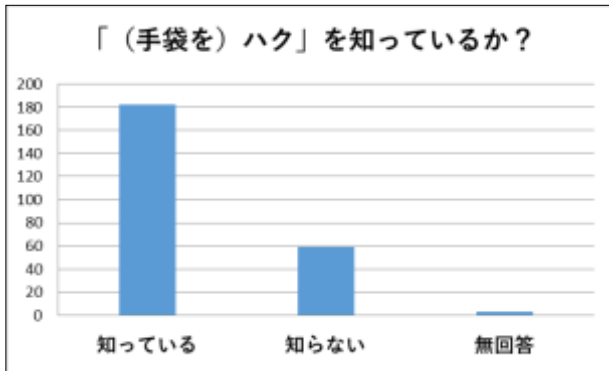


図 26 「(手袋を)ハク」を知っているか?

「知っている」と答えた人が 182 名と全体の約 75% を占め、東北地方では認知度が高いことが分かった。

「この言葉を方言だと思っていますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

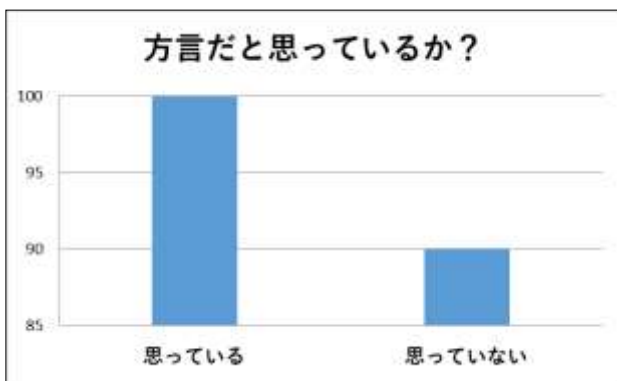


図 27 方言だと思っているか?

「思っている」と答えた人が 100 名と約 53% を占め、半数が方言だということを理解しているということが分かった。

「あなたは「(手袋を)ハク」という言葉を使いますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

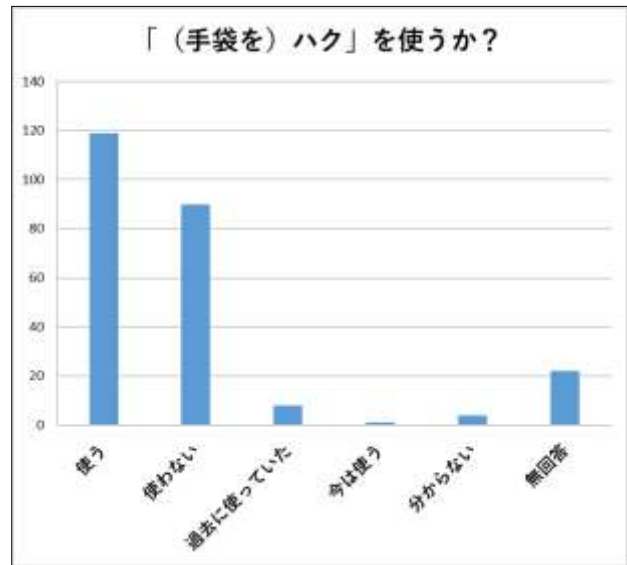


図 28 「(手袋を)ハク」を使うか?

「使う」と答えた人が 119 名と全体の約 49% を占めた。

続いて、「ナゲル」のアンケート調査結果を挙げる。「あなたは「ナゲル」という言葉を使いますか？」という問いに対する回答は以下の通りである。

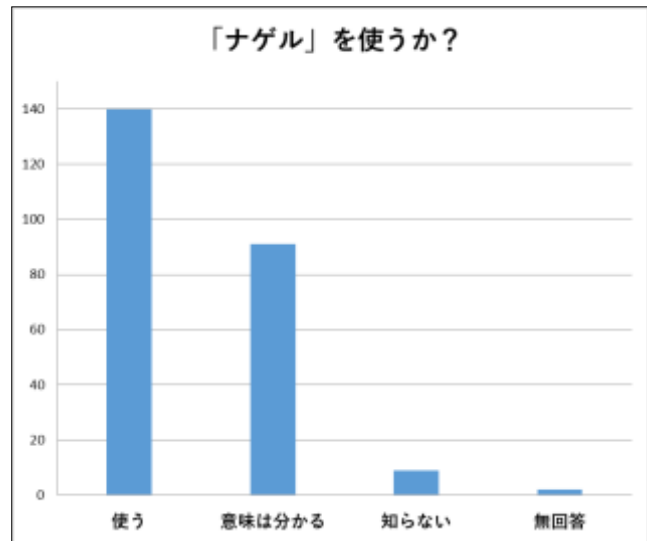


図 29 「ナゲル」を使うか?

「使う」と答えた人が 140 名と全体の約 57% を占め、半数以上が使用している。また、認知度は全体の約 95% と非常に高いことが明らかになった。

5. 考察

5.1 岡山県、兵庫県のデータ

兵庫県、岡山県の若者を中心としたデータでは、予測していた通り、南部方言を認知しているという回答が少なかった。しかし、シャッコイ、ナゲルなど方言集や方言辞典にも取り上げられているような言葉は、「使わないが意味は分かる」という形で認識されることが明らかになった。

5.2 東北地方のデータ

青森県、岩手県を中心としたデータでは、南部方言を認知しているという回答が多かった。しかし、その言葉を方言だと思っていないと回答した人が多く、方言だという理解度が低いということが分かった。

以上のことから、他県で南部方言の認知度を向上させるためには、まず周知することが大切であると思う。また、東北地方での方言理解度を向上させるためには、南部方言と共通語の違いを周知する必要があると考えた。

6. おわりに

今回、主に若者を対象に南部方言のアンケート調査を実施し、他県では認知度が低い、そして東北地方では認知度は高いが、方言であるという理解度が低いという結果を得ることが出来た。

このアンケートを回答することにより、他県での南部方言認知度が上がると共に、東北地方で方言として理解度が上がれば、地方方言の衰退が緩和出来るのではないかと考える。

謝 辞

アンケート調査に協力してくださった方々に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 篠崎晃一：マンガで気づく日本人でも知らない日本語,主婦の友社,2013

要 旨

南部方言のアンケート調査を主に若者を対象に実施し、その結果、東北地方では認知度が高く、理解度が低いこと、他県では認知度が低いということが挙げられた。しかし、シャッコイ、ナゲルなどのメディアなどで取り上げられたことのある全国的に有名になりつつある言葉は、使わないが意味を知っているという形で認識されることが分かった。また、東北地方での方言理解度を向上させるためには南部方言と共通語の違いを周知する必要があると考えられる。このアンケートを回答することにより他県での南部方言認知度が上がると共に東北地方では方言として理解度が上がれば、地方方言の衰退が緩和出来るのではないかと考えられる。

キーワード: 方言アンケート, 東北方言, 南部方言, 他県との比較